現場調査からみる指示詞の指示領域一評価・感情によるコソアの選択一

岡﨑友子(立命館大学)

1.はじめに

指示詞コソアの指示領域(指示代名詞の直示用法)はこれまで、主として研究者の内省によって盛んに議論されてきた。また、多くはないが現場調査によるものに高橋・中村(1992) 安部(2008)堤(2011)岡崎(2011、2020)等がある。その中で岡崎(2020)はゴキブリ等の嫌な対象の場合にはソが早く出現するのに対し、好ましい対象の場合はコの領域が広くなるとしている。これについて岡崎(2020:12)は「「好ましくない対象/好ましい対象」という違いが、どのように指示領域に影響するか、今後、調査の方法を変えて調べる必要がある」とし、それ以上の言及はない。

そこで本発表は話し手の評価・感情に焦点をあて調査し、分析した結果を述べていく。さらに比較のため指示副詞についても調査し、分析した結果を述べる。これらの結果から指示詞コソアの選択には話者の評価・感情が様々な形で影響することを示していく。

2.先行研究

指示詞の現地調査である高橋・中村(1992)安部(2008)堤(2011)岡崎(2011)は高橋・中村(1992)の調査法(図1)を用いてコソアの指示領域の調査、さらに年代や地域の違いに

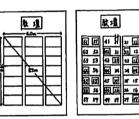






図1 髙橋・中村(1992)の調査シート

より指示に差異があることを明らかにしている。ただし、これらの研究は被験者全体の指示の傾向を指摘するものであり、個人・ 指示対象の違いによる差異は観察できない。

そこで、岡崎 (2020) ではそれらを明らかにするため調査法を変更し、図 2 の位置条件と 3 パターンの指示対象 (指示詞の語形は 2 つ) を用いて調査を行っている。以下に調査法を示す (調査は 2019 年 3 月大学生 21-22 歳の女 9 人・男 1 人の計 10 人)。

〇調査者(A)・被験者(B)の位置条件

(図 2、調査者(A)は A、被験者(B)は B、名称は一部変更)

【位置1】調査者(A)・被験者(B)は 11m離れて向かい合う

【位置2】調査者(A)・被験者(B)は5.5m離れて向かい合う

(調査者(A)が位置**6**と**6**の間に立つ)

【位置3】調査者(A)・被験者(B)は並んで同じ方向をみる

〇指示対象物(3 パターン)と調査文

[第1問][第3問]は調査者(A)が指示対象の位置を被験者(B)に問いかける形、[第2問]は被験者(B)から調査者(A)に話しかけ、被験者(B)が指示対象の位置を教える形となっている。

調査配置 ВА В В 0 1m 1m 2 0 1m 1m 1m 1m 1m 対象物 1m 1m 対象物 6 1m 1m 対象物 0 対象物 0 1m 対象物 8 0 1m 1m 1m 対象物 😲 0 0 1m 1m 1m 対象物 🕕 ❿ ❿ 1m 1m Α 位置1 位置2 位置3

[第1問]対象物は「芸能人の写真(上半身 A3)」調査者 (A)「(①~⑩の芸能人の名前) は、どの人ですか?」被験者 (B)「(この・その・あの)人です。」[第2問]対象物は「害虫等の好ましくないものの絵(A3)」被験者 (B)「<調査者の名前>さん! (①~⑩の害虫等の名前) がいます!」調査者 (A)「えっ!どこですか?」被験者 (B)「(ここ・そこ・あそこ)です!」[第3問]対象物は「名札(A4)を掲げた人」調査者 (A)「(①~⑪の人) はどの人ですか?」被験者 (B)「(この・その・あの)人です。」

岡崎(2020)の調査・分析の結果を要約すると以下となる。

- (1) 全体:【位置 1】[第1問~第3問]の各問で7名「コ→ソ1→ア→ソ2」(コ→ソ2名、コ→ア(→ソ)1名)。ソ1は中距離、ソ2は聞き手領域と考えられる(中距離ソ1、聞き手領域ソ2とする)。コ●2、ソ1③4、ア⑥、ソ2⑨⑩が中心。【位置2】全問、全員「コ→ソ→ア」。コ●2、ソ4⑤6、ア③9⑩が中心。【位置3】[第1問]「コ→ソ→ア」9名(コ→ア1名)、[第2問]全員「コ→ソ→ア」、[第3問]「コ→ソ→ア」8名(コ→ア2名)。コ1、ソ3、ア⑤⑥⑦③9⑩が中心。以上から、それぞれの指示領域は1)コは被験者(B)から1-2m、2)ソ1は被験者(B)から3-4m、3)調査者(A)と被験者(B)間のアは被験者(B)から6m、4)ソ2は【位置1】調査者(A)から2m、【位置2】調査者(A)の前1.5・後0.5-1.5m。
- (2) 個人的傾向:【位置1】2名が全問「コ→ソ」(中距離ソ1と中間のアがない)。その2名うち1名は【位置3】でソが現れず「コ→ア」([第2問:害虫等]は「コ→ソ→ア」)。つまり、1名は対象物「害虫等」以外は中距離ソ1が出ない。
- (3) 指示対象(指示詞)による傾向:指示対象「好ましくないもの(害虫等)」の「ソコ」の範囲が広く、前寄りに現れる傾向がある(【位置3】)。中距離ソ1は、場所「ソコ」に現れやすいと予測される。また、芸能人より身近な友人のほうにコが広いという結果から「好ましさ(精神的距離の近さ)」が現れた可能性がある。

なお、岡崎(2020)は個人・指示対象の違いによる指示領域の差異を中心に調査したものであり、本発表の目的とは異なる。そこで、本発表は評価・感情に焦点をあてた形に指示対象・質問を変更し、調査を行った。次節で本発表の調査法を説明する。

3.調査法について

本発表の位置条件は岡崎(2020)と同じである(図 2 。以降、位置条件は【位置 1】【位置 2】【位置 3】と記載する)。指示対象は「花 (A4 の紙に印刷)」と「ゴキブリ (動く玩具)」、指示代名詞の語形はココ・ソコ・アソコとした。さらに比較のために、指示副詞コンナ (ニ)・ソンナ (ニ)・アンナ (ニ) の調査も行った。以下に質問文を記載する。

[質問1:対象1花] (ランダムに指定) 位置❶~⑩の花の名前 [●●] を入れて、話しかけてください。〈あなた〉「△△さん(調査者)! [●●] が、きれいに咲いてます」 調査者が次のように聞きます。〈調査者〉「えっ!?どこですか?」選んで答えてください。 (答えたあと、○で答えをかこってください) 〈あなた〉「ここ・そこ・あそこ です」 [質問2:対象2ゴキブリ]以下のように、話しかけて下さい。(ゴキブリは位置❶~⑩にランダ

ムに出現します)〈あなた〉「△△さん(調査者)!ゴキブリがいます」

調査者が次のように聞きます。〈調査者〉「えっ!?どこですか?」選んで答えてください。 (答えたあと、○で答えをかこってください)〈あなた〉「ここ・そこ・あそこ です」

[質問3:対象3荷物]私(調査者)が、指さしながら次のように言います。**①~⑩**は、大きな荷物です。〈調査者〉「ちょっと、悪いけど、**①~⑩**の荷物、持ってきてくれない?」 選んで答えてください。(答えたあと、○で答えをかこってください)

〈あなた〉「こんな・そんな・あんな 荷物 一人じゃ持てません!!」

[質問4:対象4花]私 (調査者) が次のように言います。位置❶~⑩ [●●] は花の名前です。 〈調査者〉「見て見て。[●●] いっぱい咲いてる」選んで答えてください。 (答えたあと、○で答えをかこってください) 〈あなた〉「へえ~、こんなに・そんなに・あんなに 綺麗に咲いてるの初めてみた!」

調査日時は2024年7月19・22日13:00-17:00、調査場所は立命館大学平井図書館カンファレンスルーム、被験者は立命館大学学部生・大学院生19-23、36、57歳の計22名(男性6名・女性16名)である。 [質問1]22名、[質問2]21名、[質問3・4]10名の回答を得た(表1指示代名詞と指示副詞で、アルファベットが同じ場合は同一人物である)。

岡崎(2020)の調査法からの変更点について述べる。 岡崎(2020)は⑦評価・感情に焦点をあてた調査ではない、①調査の条件(指示詞の語形・質問形式)は揃えていない、⑨指示対象を手前から順(位置❶から⑩)に回答する形式であった。本調査はまず⑦対象物に好悪が出やすいように「花(写真)」と「ゴキブリ(動く玩具)」¹を選んだ。次に④指示代名詞の質問は被験者(B)から調査者(A)に話しかけ、被験者(B)が指示対象の位置を教える形、指示詞はココ・ソコ・アソコに揃えた。この質問形式をとったのは、被験者(B)

に調査者(A)をより意識させるためである。そして、⑦岡崎(2020)では被験者(B)は位置❶から⑩の順に回答する形であったため「コ→ソ→ア」と無意識に答えてしまうのではないのかという質問を受けたことがある(岡崎(2019)質疑応答)。そこで、本調査では位置❶から⑩の対象をランダムに質問し、回答を得ることにした(ただし、指示副詞は位置❶から⑩の順に質問した)。また、岡崎(2020)の調査は机上に対象物を置き一直線に並べたため、後ろの対象物が

表:	1 初	皮検者	青報									
	指	示代名	詞		指示副詞							
	年齢	性別	出身地			年齢	性別	出身地				
Α	20	女性	岐阜県		С	21	男性	大阪府				
В	20	男性	福井県		D	20	女性	兵庫県				
С	21	男性	大阪府		Ε	20	女性	静岡県				
D	20	女性	兵庫県		F	21	女性	愛媛県				
Ε	20	女性	静岡県		G	21	女性	奈良県				
F	21	女性	愛媛県		Н	20	男性	山形県				
G	21	女性	奈良県		I	21	女性	静岡県				
Н	20	男性	山形県		K	20	女性	京都府				
I	21	女性	静岡県		L	23	男性	奈良県				
J	20	女性	富山県		Q	22	男性	千葉県				
Κ	20	女性	京都府			•						
L	23	男性	奈良県	-								
М	57	女性	東京都	-								
N	36	女性	鳥取県	-								
0	21	女性	兵庫県	-								
Р	22	男性	滋賀県									
Q	22	男性	千葉県									
R	19	女性	大阪府	Rは	質	問10	つみ					
s	20	女性	滋賀県									
Т	20	女性	京都府									
U	20	女性	愛知県									
٧	21	女性	兵庫県									

¹ 「花(写真)」は位置❶赤いバラ❷ひまわり❸白いバラ❹蓮の花❺チューリップ❻あじさいਊタンポポ ❸朝顔ூ蘭⑩ユリ、岡﨑(2020)の「害虫等」は蛇、鼠、蛙等であったが本調査はゴキブリのみとした。

見えにくくなるという問題が発生していた。今回はその問題を解消するために床の上に置いた(写真)。そのため岡崎(2020)とは目線の高さが違う。

4. 調査結果:指示代名詞

指示代名詞の調査結果を表 2 から表 7 に示す(※「ソ・ア」 \bigcirc 「コ・ソ」と迷ったもの)。 各位置条件で「花」と「ゴキブリ」に対する指示詞を比較する(表の $※\bigcirc$ はカウントせず)。

	· - · - · · · · · · · · · · · · · · · ·
表 2 【位置1】(向かい合う)[質問 1:対象 1 花]	表5【位置1】(向かい合う)[質問2:対象2ゴキブリ]
1*1 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V	1*2 A B C D E F G H I J K L M N O P Q S T U V
	②
□ ソソソソソアソアソソソソソコソアソアアア	
6	6
□ □ □ □ □ □ □	
	yyyyyyrryyyyyyyyyy
	® ソソソソソソファソソアソソソソソソ
表3【位置2】(⑤と⑥の間) [質問1:対象1花]	表6【位置2】(⑤と⑥の間) [質問2:対象2ゴキブリ]
2*1 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V	2*2 A B C D E F G H I J K L M N O P Q S T U V
1	0
	② □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□	
yyyyyyyyyyyyyyyyyyyy	
⑤ ソソコソソソソソソソソソソソソソソソ	(9)
6	⑤ ソソソソソソファソソソコソソソソソソソソ
	yyryyyyyyyyrryyyyyry
3	3
9 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	9 y × y y r r r r r r r r r r
(D) Y	10 y r r r r r r r r r r r r r r r r r r
表4【位置3】(並び合う) [質問1:対象1花]	表7【位置3】(並び合う)[質問2:対象2ゴキブリ]
3*1 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V	3*2 A B C D E F G H I J K L M N O P Q S T U V
1	1
② コソコソコココソソココココソココソソソコソコ	② □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
yyyyyryryryyyrryyyyyrry	
(5)	(3)
y r r y r r r r r r r r r r r r r r r r	
3 y	3
① ソアアアアアアアアアアアアアアアアアアア	10 y r r r r r r r r r r r r r r r r r r

4.1【位置1】(向かい合う、調査者(A)・被験者(B)は11m離れて向かい合う)

表8【位置1】において両対象とも位置①ココのみ②ココ優位③ソコ優位であり、嫌な対象(ゴキブリ)にソコが早く現れるといった傾向は見られない。これは岡崎(2020)でも同様の報告がある(【位置3】に早く見られる)。【位置1】の特徴は位置⑦から⑩に見られ、「花(表2)」はアソコ、「ゴキブリ(表5)」はソコの回答が多い。これについて被験者Dはインタビューで「相手がそれを踏まないように/相手がその場から逃げられるように"いち早く相手に知

表	₹8	【位	の対	照									
表 2	П	ソ	ア	表 5	П	ソ	ア						
•	22	0	0	0	21	0	0						
2	14	8	0	0	16	5	0						
8	6	14	2	8	5	13	2						
4	2	14	6	4	1	16	4						
6	0	11	11	6	0	13	8						
0	0	9	12	0	0	9	12						
0	0	10	12	0	0	14	7						
8	0	10	12	8	0	17	4						
9	0	12	10	9	1	16	4						
0	0	12	9	0	0	19	2						

らせないと"という場合は、(相手を強く意識 するため) 相手の立ち位置によって指示詞が 変わる | とする。これは表9「花 | では、聞 き手である調査者(A)手前の位置**⑩**をアソ コで指示する被験者7名が、「ゴキブリ」では ソコとしていることからも伺える。

このように調査者(聞き手)に近い位置で ソコが「ゴキブリー>「花」であるのは「あ なたの領域(聞き手領域ソ2)に危険(ゴキ

		表	9		位	置 :	1]	被	験	者l	٠ ر	٠١	۸.	0	٠ ج	•	T٠	٧		
Τ	花	ゴ	J	花	ゴ	M	花	ゴ	0	花	ゴ	S	花	ゴ	Т	花	ゴ	٧	花	⊐
0	⊐	⊐	0	⊐	⊐	0	⊐	⊐	0	⊐	⊐	0	⊐	=	0	⊐	コ	0	⊐	⊐
0	⊐	ソ	0	П	⊐	0	ソ	ソ	0	ソ	ソ	0	ソ	П	0	П	⊐	0	П	П
0	ソ	ソ	€	⊐	⊐	€	ソ	ソ	€	ソ	ソ	€	ソ	ソ	€	ア	ア	0	ソ	ア
4	ア	ア	4	ン	ソ	0	ソ	ソ	0	ソ	ン	0	ソ	ソ	4	ア	ア	4	ア	ア
6	ア	ア	6	ソ	ア	6	ソ	ソ	Ø	ア	ア	0	ア	ソ	6	ア	ア	6	ア	ソ
0	ア	ア	0	ン	ア	0	ソ	ソ	0	ソ	ア	6	ア	ア	0	ア	ア	0	ア	ア
0	ア	ア	Ø	ア	ソ	Ø	ソ	ソ	Ø	ソ	ソ	0	ア	ア	Ø	ア	ア	0	ア	ア
0	ア	ア	8	ア	ソ	0	ア	ソ	0	ソ	ソ	0	ア	ソ	8	ア	ア	0	ア	ソ
0	ア	ア	9	ア	ソ	0	ア	⊐	0	ソ	ソ	0	ア	ソ	9	ア	ア	9	ア	ソ
0	ア	ソ	0	ア	ソ	0	ア	ソ	0	ア	ソ	0	ア	ソ	0	ア	ソ	0	ア	ソ

ブリ)が存在するよ」と聞き手に素早く正確に伝えたいという話し手の評価・感情によるも のと予想する²。被験者 B も「「そこ」は正確に指す、「あそこ」は大まかに指すイメージ。 ゴキブリは正確に指す必要があるから、「そこ」の範囲が広がったのかも」と回答する。こ れも同様の理由であろう。

4.2【位置 2】(調査者(A)が位置**6**と**6**の間に立つ。調査 者・被験者は5.5m離れて向かい合う)

表 10【位置 2】は【位置 1】と比べ、両対象の違いは大 きくはない。傾向として位置**6**から**9**の「ゴキブリ(表6)」 にソコが多いことが指摘できる。この位置は調査者(聞き 手) 背面であり、【位置1】と同じく聞き手を意識する形で 出たソコであると予想される。

4.3【位置3】(並び合う、調査者(A)・被験者(B)が並ん で同じ方向をみる)

表11【位置3】も【位置1】に比べ違いは大きくない。 この位置条件の特徴は、位置❶で被験者 I・N・O にソコの 回答が見られたことである (表 12)。他の位置条件では位 置❶にソコは出ない(発表者も 1m手前に、もしもゴキブ

リが出現したら、真横にいる聞き手

この【位置3】は【位置1】【位置 2】とは違い、聞き手である調査者

	表10 【位置2】表3と表6の対照													
表3	⊐	ソ	ア		表6	⊐	ソ	ア						
0	22	0	0		0	21	0	0						
0	17	5	0		0	14	7	0						
0	4	18	0		•	4	17	0						
4	0	21	1		4	0	21	0						
•	1	20	1		•	0	21	0						
6	0	17	5		6	0	19	1						
0	0	16	6		•	0	17	4						
8	0	3	19		©	0	6	15						
9	0	1	21		9	0	2	19						
0	0	1	21		0	0	1	20						

	表11	【 12	立置3]	1	表4と	表70)対照	
表4	П	ソ	ア		表7	П	ソ	ア
0	22	0	0		•	18	3	0
0	13	9	0		0	12	9	0
€	2	19	1		©	1	18	2
4	0	15	7		4	0	17	4
6	0	11	11		0	0	10	11
6	0	10	12		0	0	7	14
0	0	3	19		0	0	2	19
8	0	1	21		8	0	2	19
9	0	1	21		9	0	1	20
0	0	1	21		0	0	1	20

١.	16	_		16	_	v	16	7	
0	П	ソ	0	П	ソ	0	П	ソ	
0	ソ	ソ	0	ソ	ソ	0	П	ソ	
€	ソ	ア	€	ソ	ソ	€	ソ	ソ	
4	ア	ア	4	ア	ア	4	ア	ソ	
0	ア	ア	Ø	ソ	ア	0	ソ	ソ	
0	ア	ア	0	ソ	ア	0	ソ	ア	
0	ア	ア	Ø	ア	ア	0	ア	ア	
0	ア	ア	0	ア	ア	0	ア	ア	
0	ァ	ァ	0	ァ	ァ	0	ァ	ア	Ì

表12【位置3】被験者I·N·O

(A) と並び合っており、前方に聞き手領域はない。岡崎(2020)で 指摘するような、嫌な対象を話し手自らが忌避する感情(早く自分の 領域コから離したい)からソコを使用していると予想する。

以上のように、指示詞の選択は対象までの距離に加え、聞き手と指 示対象に対する話し手の評価・感情が影響を与えていると予想される。

²「花」は6節の美しさの程度を指示副詞で示す際に、好ましいものとして評価・感情の影響が現れる。

まず、聞き手領域がある【位置1】【位置2】では聞き手に対し、聞き手の領域にある危険を素早く正確に伝えるためにソコ(聞き手領域ソ2)を選択し、聞き手と並び合った【位置3】の場合には自らの領域コから排除したい感情からソコ(中距離ソ1)を選択してるのではないだろうか 3 。

4.4 その他

その他、本調査のデータで特徴的なものについて述べる。表 13 被験者 A は全て「 $\neg \rightarrow \gamma$ 」でありアが出ない。インタビューで「自分から近ければ「 $\neg \rightarrow \gamma$ 」でありアが出ない。50mくらい離れてたり、そにしていない。「あそこ」はほぼ使わない。50mくらい離れてたり、その場にないものを話すときに使う」とする。被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ とした被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ とした被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ とした被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ と回答しており、アが出ない被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ と回答しており、アが出ない被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ と回答しており、アが出ない被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ と可答しており、アが出ない被験者 $\neg \rightarrow \gamma$ とは相違する。

		表13	3 被	験者	ťΑ	
Α	表 2	表 5	表3	表6	表 4	表 7
0	П	п	П	П	П	П
0	П	п	П	П	П	П
0	П	ソ	П	ソ	ソ	ソ
0	П	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
Θ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ゝ	ソ	ソ	ソ	ソ	ゝ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ン

次に、被験者 M (表 14) は【位置 1 】位置**9**と【位置 2 】位置**6**にココが出る。どちらも対象物が「ゴキブリ」で聞き手(調査者)の近くにココが出

出る	0 0	ک	5	6	\$ 3	村皇	农生	勿力	7.	ゴ
表1	5 [1	立置	1]	20	20年	Ξ (第2	害虫	b等)
2*1	NM	YS	SA	ΑY	UY	SR	UR	ΟY	TT	ΙU
0	п	П	П	П	П	П	П	П	П	П
0	ソ	ソ	П	П	П	П	П	П	П	П
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	П	П	ソ	П	ソ
4	ア	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	ア	ソ	ソ	ア
0	ア	ア	ソ	ア	ソ	ソ	ア	ソ	ソ	ア
0	ア	ア	ア	ア	ソ	ア	ア	ソ	ソ	ア
0	ソ	ア	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ア	ア
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ア	ソ
Θ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ア	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
表1	6 [·	位置	2]	202	20年	(3	月2	害虫	等)	
2*2	NM	YS	SA	ΑY	UY	SR	UR	ΟY	TT	ΙU
0	П	П	П	П	П	П	П	П	П	П
0	П	П	П	ソ	П	П	П	ソ	П	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
4	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
0	ア	ア	ソ	ソ	ア	ア	ソ	ソ	ソ	ソ
8	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
Θ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
0	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
表1	7 [·	位置	3]	202	20年	()	育2	害虫	(等)	
2*3	NM	YS	SA	ΑY	UY	SR	UR	ΟY	TT	ΙU
0	コ	コ	コ	П	П	П	П	П	П	П
0	ソ	ソ	ソ	ソ	П	ソ	ソ	ソ	П	ソ
0	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ア	ソ	ソ

ている。インタビューで「相手の立場(調査者)に置き換わってコと指した」とする。また、被験者 C は対象物「花」の【位置 2】位置⑤でココが出る。インタビューで「どちらかといえば調査者目線。調査者と花の距離で変わる」としており被験者 M と同じく、聞き手を意識した指示と予想される。

M表5表6 ① コ コ ② ソ ソ	C	表3 コ コ
1	9	пп
2 7 7	3 0	п
6 11 11	3	
5)	ソ
④ ソ ソ	0	ゝ
⑤ ソ ソ	Θ	п
⊙ ソコ	0	ア
り ソ ア	Ø	ア
3 ソ ア	0	ア
9 コ ア	0	ア
の ソア	Θ	ア

5. 岡崎(2020) との比較

岡崎(2020:表 15 から表 17) と今回の調査のデータを比較する。実は、調査前には岡崎(2020)のデータから【位置1】位置**①**はほぼソであると予想していた。しかし、今回の



調査でアの回答がある程度見られ 意外な結果であった。これについて は対象物を机上ではなく床置きに した影響があったかもしれない。写 真は 2019 年の調査のものであり聞 き手前 1m の机上の方が、床置き下 方の対象よりも、聞き手近くには見 える。

³ 三上(1970)の double binary に近いが、「我々がぐる」になってもソは没収されない。

また、この位置の変更は 4.3 節で指摘した「ゴキブリ」【位置 3 】位置①にソコが早く出たことにも影響を与えた可能性がある。しかし、同位置条件の「花」【位置 3 】位置①は全てココであること、加えて 4.1 節で述べたように表 9 【位置 1 】位置⑩「花」をアソコで指す被験者 7 名が、「ゴキブリ」ではソコであることから指示詞の選択に何等かの評価・感情の影響はあると考える(【位置 1 】位置⑩で両対象に対しアソコで指示するのは 2 名)。

次に、評価・感情と関わらないが、今回の調査で明らかになったことを述べておく。まず、 岡崎(2020)の表 15【位置 1】「コーソ」 2 名を特殊な指示のケースとしていた。しかし、 今回の調査でも表 5 被験者(A)D・E・L・N・Q が「コーソ」と回答している。このこと から中距離ソ1と中間のアが出ない指示は、特殊なケースではないと判断される。

次に、岡崎(2020)で【位置1】「コ→ア→ソ2」と中距離ソ1がない回答が1名見られたが、これも今回、被験者 $F \cdot T \cdot U$ の3名が同じ回答をしている(どちらも【位置3】では中距離ソ1が出る)。さらに今回の調査で、中距離ソ1が全く出ない被験者 T がいた。被験者 T はインタビューで、このようなソコ(中距離)は使用しないと回答している。以上から、何等かの条件で中距離ソ1が出ない、または中距離ソ1を使用しない人がいる。

最後に、今回の調査では位置❶から⑩までの対象をランダムに回答させた。そのためであろうか、例えば被験者Qは【位置3】でコ・ソ・ア・ソ・アと回答している(表7)。岡崎(2019)で「コ→ソ→ア」と被験者が無意識に答えてしまうのではないかという疑問があっ

たが、その可能性は高いよう に思われる。今後も調査法を 調整する必要がある。

6. 調査結果:指示副詞

指示副詞を調査した結果を表 18から表 23にまとめる(◎「コ・ソ」、※「ソ・ア」と迷ったもの)。対象「花」を全ての位置条件においてコで回答する被験者 D(被験者 Qの【位置1】も)が見られた。被験者 D はインタビューにおいて、

「もっと距離が遠ければ"あんな"を使うかもしれないと思いました。例えば、新幹線の中から富士山を見た時、「あんな富士山ってデカいん?!すご!」等。しかし、今日の教室の距離では"あんな"は出てきませんでした|と回答する。ま

表18	表18【位置1】[質問3:対象3荷物]											表2	1 [位置	1)		質問	5 4	· 太	象4	花]
1*3	D	Ε	F	G	С	L	Н	Q	ı	K		1*4	D	Ε	F	G	С	L	Н	Q	-	K
0	П	П	П	П	П	П	П	П	П	П		0	П	П	П	П	П	П	П	П	П	П
0	⊐	П	П	П	П	П	П	П	П	П		0	П	П	П	П	П	П	П	П	П	П
©	П	П	П	ソ	ソ	ソ	ソ	ア	П	П		0	П	П	П	ソ	П	ソ	ソ	П	ソ	ソ
4	ア	ソ	ソ	ア	ソ	ソ	ソ	ア	0	ソ		4	П	ソ	П	ソ	ソ	*	ソ	П	ア	ソ
•	ア	ソ	ゝ	ア	ゝ	ゝ	ゝ	ア	ゝ	ソ		0	П	ア	ソ	ア	ゝ	ア	ソ	П	ア	ゝ
0	ア	ア	ゝ	ア	ア	ゝ	ア	ア	ゝ	ア		©	П	ア	ソ	ア	ア	ア	ア	П	ソ	ア
0	ア	ア	ア	ア	ア	ゝ	ア	ア	ン	ア		•	П	ア	ア	ア	ア	ア	ア	П	ソ	ア
8	ア	ゝ	ソ	ソ	ア	ソ	ア	ソ	ソ	ア		0	П	ア	ア	ア	ア	ア	ア	П	ア	ア
Θ	ア	ソ	ソ	ソ	ア	ソ	ア	ソ	ソ	ソ		9	コ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	コ	ソ	ア
0	ア	ソ	ソ	ソ	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ		0	コ	ア	ソ	ア	ア	ソ	ア	コ	ア	ア
表19	1	立置	2]	[貿	間	3:		83	荷物				22 [位置	[2]		質問	4	_	-	花	
2*3	D	Ε	F	G	С	L	Η	Q	-	K		2*4	D	Ε	F	G	С	L	Н	Q	-	K
0	コ	П	П	П	П	П	П	П	П	コ		0	П	П	コ	П	П	П	П	コ	コ	П
0	コ	コ	П	П	П	П	П	П	П	コ		0	П	П	コ	П	П	П	П	コ	コ	П
0	コ	ソ	П	ソ	П	ソ	П	ソ	ソ	ソ		0	П	П	コ	ソ	П	ソ	П	コ	ア	П
4	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ		4	П	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	П	コ	ソ	ソ
9	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ		Θ	П	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	П	コ	コ	ソ
0	ア	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ		0	П	ア	ソ	ソ	ア	ソ	ソ	П	ソ	ソ
0	ア	ソ	ソ	ア	ア	ア	ア	ソ	ア	ア		0	コ	ア	ソ	ソ	ア	ア	ソ	ア	ソ	ア
8	ア	ア	ソ	アー	アー	アー	アー	ア	ア	ア		0	П	ア	ア	ア	アー	ア	ア	ア	ア	ア
0	ア	ア	ア	アファ	ア	ア	アマ	ア	ア	ア		9	П	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ソソ	アア
)	<i>J</i>	ア	ア	<i>J</i>	<i>)</i>	<i>J</i>)	J.	ア	H	_		<i>J</i>	<i>J</i>	ア). EE 00	,	<i>J</i>	<i>)</i>	-	
表20					問	3:								位置			質問				化	_
3*3	D	E	F	G	С	느	H I	Q	ᆣ	K		3*4	D	E	F	G	С	느	H I	Q	_	K
0	ПП	ПП	ПП	ПП		ПП	ПП	ПП	ПП	п		0		ПП	ПП	コソ		ПП	ПП	ПП	ПП	ПП
6		コソ	コソ	ファ		コソ	コソ	ファ	コソ	ソ		8		7 1		ソ		ュア				
4	ファ	ア	ソ	アア	コソ	ソ	ア	アア	ア	ソ		4		コソ	コソ	ソ	コソ	1	コソ	ファ	ファ	コソ
9	アア	ア	ア	_	ソ	ア	アア	アア	アア	ア		6	-	ア	ソ	ア	ソ	アア	ソ	アア	J.	ア
6	アア	ア	アア	アア	ア	アア	アア	アア	ア	ア		0		ア	ア	ア	ア	アア	ア	アア	7 -	ア
0	ア	ア	ア	アア	ア	ア	ア	ア	ア	ア		0	-	ア	ア	アア	ア	ア	アア	ア	ソ	ア
8	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア		8		ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	<u> </u>	ア
Ø	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア		Ø	$\frac{1}{2}$	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア		ア
0	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア		9	=	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア		ア
	7		,		,	,	,		,	7	ш	•	_	,	7		,	,		7	_	

た、被験者 I は【位置 1 】 コソアソアソア【位置 2 】 コアソコソアソ【位置 3 】 コアコソコと入り組んで回答し、インタビューでは「距離ではなく、花の価値、花の親しみ度」とする。なお、多くの被験者が④蓮の花は実際に見たことがないと述べ、興味深いことに被験者 I は ④蓮の花に【位置 1 】【位置 3 】でアを選択している。

今回の指示副詞の調査も対象3「一人では持てそうにない重い荷物(を持てという依頼)」と対象4「綺麗に咲いている花(に感動)」のように、指示対象に好悪の評価・感情を意識している。「花」に対し全てコで指示する被験者Dに加え、被験者Q・Iもコの範囲が「荷物」の場合よりもかなり広い。この結果は、好ましいものにはコを使用するという岡崎(2020)の指摘と合致する。このように被験者Dにとっては調査した教室がアを使用するには小さかった可能性はあるが、指示代名詞の場合にはアを使用しており、被験者Iのインタビューもあわせ考えると、指示副詞を使用する場合はより評価・感情の影響があるように思われる。なお、【位置3】(表 20・表 23)のソが指示代名詞に比べかなり少ない。被験者Eはインタビューで「「そんなに」は、あまり言わないかも」と回答する。発表者の感覚でもソンナ(ニ)は使用しない。中距離に関しては指示副詞のソは使用しにくいと予想される。

7.まとめ

本発表で明らかにしたことをまとめておく。

調査の結果、指示代名詞において「花」よりも「ゴキブリ」の指示にソコが選ばれる位置がある。【位置1】【位置2】は聞き手に対し、聞き手領域に存在する危険を伝えたいという話し手の評価・感情がソコを選択させ、【位置3】は嫌な対象を自らの領域コから忌避したいという話し手の評価・感情からソコを選択したものと予想する。

次に、指示副詞の調査結果では「花」に対しコンナニの指示領域がかなり広い被験者や、「花」の種類によってコンナニ (アンナニ)を選択する被験者が見られた。このことから指示代名詞に比べ、指示副詞の指示はより話し手の評価・感情の影響があることが予想される。今後も調査法を調整しながら、調査・分析することが必要であろう。

参考文献

安部清哉(2008)「指示代名詞の現場指示の領域―高橋調査法による 2008 年若者のコソアドー」 『学習院大学文学部研究年報』55、pp.73-112.

岡崎友子 (2011)「指示代名詞の直示用法における領域調査―高橋調査法による、2010 年中国四国地方の若者のコソアー」『就実論叢』40、pp.29-48.

岡崎友子 (2019)「現代語コソアの指示について」日本語文法学会第 20 回大会 (於,学習院大学). 岡崎友子 (2020)「現代日本語の指示詞コソアの指示領域」『文学論藻』第 94 号、東洋大学文学部紀要第 73 集日本文学文化篇、pp.140 (1) -124 (17).

高橋太郎・中村祐里子 (1992)「1991 年、わかもののコソアド」『麗澤大学論叢』3、pp.1-35. 堤良一 (2011)「西日本の若者のコソアー高橋調査法による岡山大学での調査から一」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』31、pp.15-26.

三上章(1970)『文法小論集』くろしお出版

追記: 本研究は科学研究費補助金 20K00636、23K00551 による。調査協力者に記して感謝する。